
5 . 活力と魅力あるまちづくり

分野全体を取り巻く状況

西東京市では、これまで援農ボランティアの育成、創業支援・経営革新相談センターの運営、商工会ホームページの作成など、農業・商業・工業の振興に取り組んできました。

しかし、市内産業については農地の減少や商店・事業所数・従業員数の減少などが見られます。依然として、市民の買い物や通勤は、都心部などに流出している傾向も顕著です。

今後、地域経済を維持発展させ、活力あるまちづくりを行うためには、産業の活性化が欠かせません。そのため、市民、事業者、行政などの連携により市内の資源やネットワークを有効に活用し、既存産業の振興と新産業の創出に取り組むことが求められます。

さらに、農業振興にあたっては、安全・安心な農産物の生産支援や援農ボランティアの組織化、景観形成や食育といった観点から、農地の多様な活用について検討することも必要です。

分野全体の目的

市場のニーズに応じて産業構造が変化する中、西東京市においては農業の経営耕地面積の減少、大手工場の移転や規模縮小、また、近隣地域の活性化による購買流出などの動きが見られます。一方、農業は食の新鮮さ、食の安全性、農地の保全の観点からの期待が高く、地域での流通・販売の促進が求められています。工業では、技術力の高い小規模工場の今後の発展が期待されます。また、商業においては、市の人口密度の高さなど商業環境を取り巻くポテンシャルは高く、活力のあるまちづくりのために、活性化が欠かせません。

地域経済の維持・発展のために、既存産業の新たな展開や、より一層の振興を図るとともに、労働環境の向上をめざします。

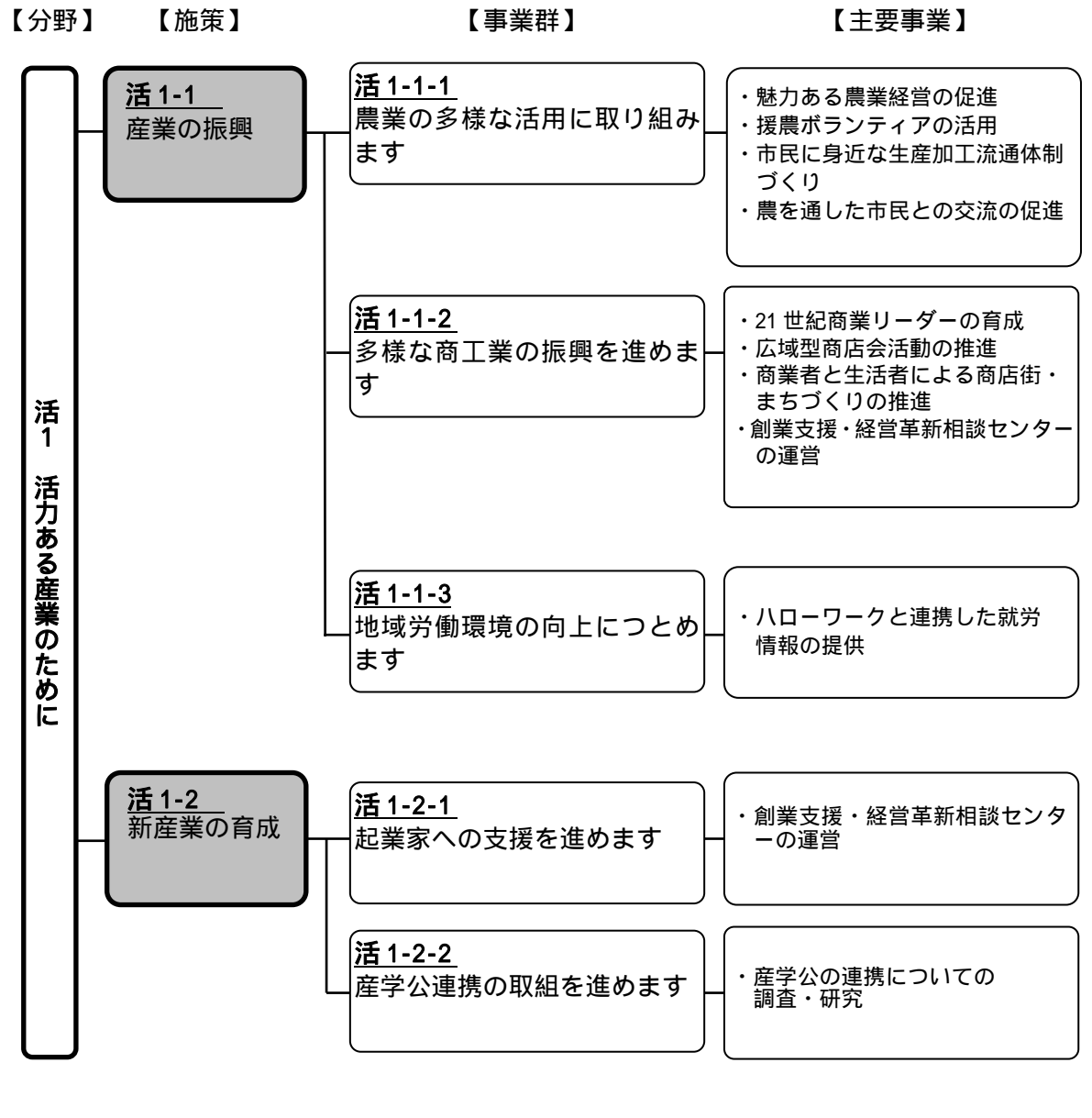
さらに、これからは時代に対応した新たな産業の開発がしやすい環境をつくり、商店街活性化のための創業支援や、産・学・公の連携などを推進していく中で、地域の活力の創出を図っていきます。

用語解説

援農ボランティア：農家で高齢化が進展し、担い手の不足がみられるなど、農業の慢性的な人材不足が課題となっています。そこで、本格的に農作業の体験をしてみたいという人がボランティアで農作業を手伝うことにより、農繁期における労働力不足の課題を解消することを目指しています。西東京市にも、一定の農業技術を習得後、援農ボランティアとして農家の方とともに農産物の生産を担っていただく制度があります。募集は、JA東京みらい保谷支店・JAあぐり田無支店・市が実施しています。



図表 5-1 活 1 活力ある産業のために～全体構成



施策を取り巻く現状

西東京市では、これまで援農ボランティアの育成、商店街活性化への支援、中小企業への支援、就職相談会の実施など、農業、商業、工業の振興に取り組んできました。

しかし、農家数、商店数、中小企業数の減少など、地域産業の停滞傾向は依然として続いています。特に、商店街では空き店舗が増加する一方、近隣市を含めた大型ショッピングセンターの建設が数多く見られます。

農業を見ると、全国的な食育や地産地消の動きや、自然環境への市民意識の高まりなどを受けて、そのあり方が見直されています。

一方、商業では、地域特性を活かした中心市街地活性化の必要性の指摘があるなど、今後も続くと思込まれる人口の増加や、駅前のまちづくりの推進により、商業振興の潜在的な可能性が高まっています。工業では、技術力の高い小規模工場の発展が期待されます。今後はこれらに留意しつつ、西東京創業支援・経営革新相談センターを中心として、既存商工業者に対する経営革新に向けてのバックアップ体制を模索していく必要があります。

施策全体の課題

安心・安全な農産物支援や援農ボランティアの活用や体験農園の開設支援など、地域に密着した農業の振興に取り組むことが必要です。また、食育や景観形成の観点から、農地の多様な活用についての検討が必要です。

商工業については、駅前における商業振興の可能性などを踏まえて、市民・事業者・教育機関・行政の連携により、地域資源の活用の観点から振興策に取り組むことが必要です。あわせて、既存産業の新たな展開のために、西東京創業支援・経営革新相談センターを中心とした経営革新に取り組む事業者に対する支援体制が必要です。

また、市内の中小企業に対しては、引き続き支援を行うと同時に、市民・事業者・行政の連携により地域雇用を促進することも必要です。

施策実施へ向けたキーワード

- ・ 農業を活用したまちづくり
- ・ 西東京創業支援・経営革新相談センターを中心とした経営革新のための場、機会、情報の提供
- ・ 多様な主体と連携した商工業の振興、地域雇用の促進

図表 5-2 西東京市の商店数、年間商品販売額推移

	商店数			従業者数			年間商品販売額(百万円)		
	11	14	16	11	14	16	11	14	16
卸売業	207	206	203	1,256	1,301	1,144	78,224	59,080	57,289
小売業 (飲食店を除く)	1,516	1,396	1,345	9,736	9,316	9,170	152,897	149,932	147,512
総数	1,723	1,602	1,548	10,992	10,617	10,314	231,121	209,012	204,801

資料：商業統計調査報告

用語解説

地産地消：地域の消費者ニーズに即応した農業生産と、生産された農産物を地域で消費しようとする活動を通じて、農業者と消費者を結びつける取組のことです。西東京市には、平成 18 年現在、約 182 ヘクタールの農地があり、野菜・果実・花などの農産物が生産され、これら農産物は生産農家の庭先等で直売され、新鮮・安全な農産物が提供されています。

活1 - 1 産業の振興の目標

市内の農業・商工業を振興し、地域経済の発展をめざします。

施策の成果を示す代表的な指標と5年後の姿(目標値)

代表的な指標	19年度 実績値	25年度 目標値	方向	指標設定の理由、目標の根拠
「地元商業・サービス業の育成・支援」に対する満足度	8.7%	16%	↗	「地元商業・サービス業の育成・支援」に対する満足度は商業分野の中でもっとも低くなりました。事業者と生活者の交流や意見交換、協力などをより一層進めることで、満足度はあがっていくものと考えられます。(市民意識調査で把握します。)
認定農業者数	35人	60人	↗	収益性の高い、産業として魅力のある農業経営を支援するため、認定農業者への支援や家族協定の締結の促進、営農形態に応じた、生産・販売支援などを行ないます。また農産物の生産性をあげるための施設建設の支援も行います。(平成18年度からの累計)
チャレンジショップ事業により起業した件数	2件	14件	↗	西東京市の商業をリードする事業者を育成するとともに創業支援・経営革新相談センターを活用した起業家などに対して、開業の場を提供することによって商店街の空き店舗などをなくし、魅力ある商店まちづくりを支援していきます。(平成19年度からの累計)
就労相談を受けて採用まで至った件数	892人	1,000人	↗	地域労働環境改善のため、ハローワークと連携した十分な就労情報の提供と相談事業の充実によって新規就労者は増加していくものと考えられます。

課題解決へ向けた主な取組

活1-1-1 農業の多様な活用に取り組みます

- ・ 減農薬・減化学肥料による農業を推進し、安全で安心な農産物の普及を進めます。市内で生産される農産物などの商品価値を高め、収益性の高い都市型の産業としての魅力ある農業経営となるよう支援します。
- ・ 市民が生産の喜びと農業に対する理解を深められる機会を提供し、地産地消を促進するなど、多面的に振興を図ります。

活1-1-2 多様な商工業の振興を進めます

- ・ 魅力ある商業や商店街をつくっていくリーダーを養成したり、商店街などの組織力を強化するための広域的な組織づくり、商工業者と生活者のパートナーシップによる商店街やまちづくりを、市民と協働して進めていきます。
- ・ 中小企業者に対しては、自主的な経済活動を促進し、経営の安定あるいは経営革新を図るための支援をしていきます。
- ・ 情報産業など大規模な用地を必要としない形態の産業を誘致するための方策を検討していきます。

活1-1-3 地域労働環境の向上に努めます

- ・ 関係機関と連携し市民の就職機会を提供したり、国の中小企業者の退職金共済制度への加入を促進するなど、地域内の事業所やそこで働く人の労働環境改善を支援します。

施策を取り巻く現状

西東京市の商工業を取り巻く環境は厳しさを増しており、商店の年間販売額や商店数、事業所数は減少傾向にあります。特に商店街では後継者不足から空き店舗の増加が顕著に見られます。

こうした状況の中、西東京市では、起業・創業への支援のために西東京創業支援・経営革新相談センターの運営や、空き店舗を活用したチャレンジショップ事業の実施を行ってきました。また、市内にある武蔵野大学、早稲田大学、東大農場等との連携に向けて、さまざまな取り組みを進めてきました。

しかし、新産業創出や、産学公連携の取り組みとしては目に見える成果が出ていないという現状もあります。

今後は、地域の新たな活力の創出に向けた効果に留意しつつ、西東京創業支援・経営革新相談センターによる起業支援や市内大学との連携などを模索していく必要があります。

施策全体の課題

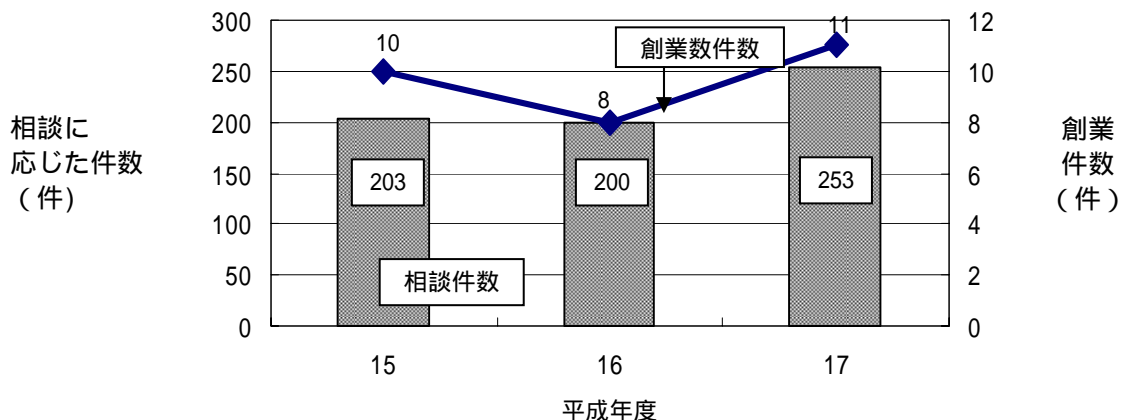
新産業の育成のためには起業家・創業者への支援が不可欠です。西東京創業支援・経営革新相談センターを中心とした起業・創業しやすいしくみづくりが必要です。あわせて、空き店舗の有効活用による商店街の活性化も求められています。

また、産学公連携による事業については市内の大学機関を活用しての具体的事業の実施の拡充に取り組み、地域活性化につなげる必要があります。

施策実施へ向けたキーワード

- ・ 西東京創業支援・経営革新相談センターを中心とした起業、創業のための場、機会、情報の提供
- ・ 産学公連携による具体的な事業の実施

図表 5-3 西東京創業支援・経営革新相談センターで各種相談に応じた件数



最終版までに時点修正いたします

資料:平成 18 年度 西東京市事務事業評価報告書

活1 - 2 新産業の育成の目標

起業・創業に対する支援を行い、新たな地域産業の活性化をめざします。

施策の成果を示す代表的な指標と5年後の姿(目標値)

代表的な指標	19年度 実績値	25年度 目標値	方向	指標設定の理由、目標の根拠
創業支援・経営革新相談センターで相談に応じ、創業した件数	11件	15件	↗	市民のニーズに沿った創業支援・経営革新相談センターの運営を行うことで、相談件数は増加していくと考えられます。また、今後退職後の生きがいとして起業へのニーズがさらに高まるものと考えられます。 相談を受け創業にいたった件数の増加は、創業支援相談・経営革新相談センターにおいて適切な情報提供やアドバイスがあったといえます。
産学公の連携による取組を実施した件数	—	5件	↗	産学公の連携を進めることで、西東京市に新たな産業が生まれ、経済を活性化していくことができます。

課題解決へ向けた主な取組

活1-2-1 起業家への支援を進めます

- ベンチャービジネス・SOHOなど、これから起業・創業を行う人に対して、事業内容、資金等の相談やアドバイスを行うと共に、その動きを誘発する助成や空き店舗活用、人材育成支援などを行います。

活1-2-2 産学公連携の取り組みを進めます

- 市内外の大学等の研究機関と事業者及び行政が共同または連携して行う「知的資源」を活用した起業や事業化について、コーディネート及びマッチングを行うほか、新たな展開を模索する異業種間の交流・連携についての調査・研究を進めます。

分野全体を取り巻く状況

現在、観光のあり方が見直されています。平成 18 年度に観光立国推進基本法が制定され、観光による地域のにぎわいづくりの重要性が指摘されています。

西東京市では、まちの魅力の創造のために、これまで散歩道や水辺環境の整備に取り組んできましたが、さらに自然環境を活かした景観整備を求める市民の意識が高まっています。また、アニメ産業やさまざまな分野で活躍する人材などの特色ある資源がありますが、近隣市と比べても、こうした地域資源の活用の余地が大きいといえます。

さらに、東京都による東伏見公園の整備と石神井川の改修などが進められており、市内に不足していた水とみどりの景観として、まちづくりに有効に活かしていくことが求められます。

今後は、そうした地域資源に着目し、市民、事業者、行政の連携によって一体的なまちの魅力、「西東京ブランド」を形成し、人が集えるまちづくりを行うことが重要です。

分野全体の目的

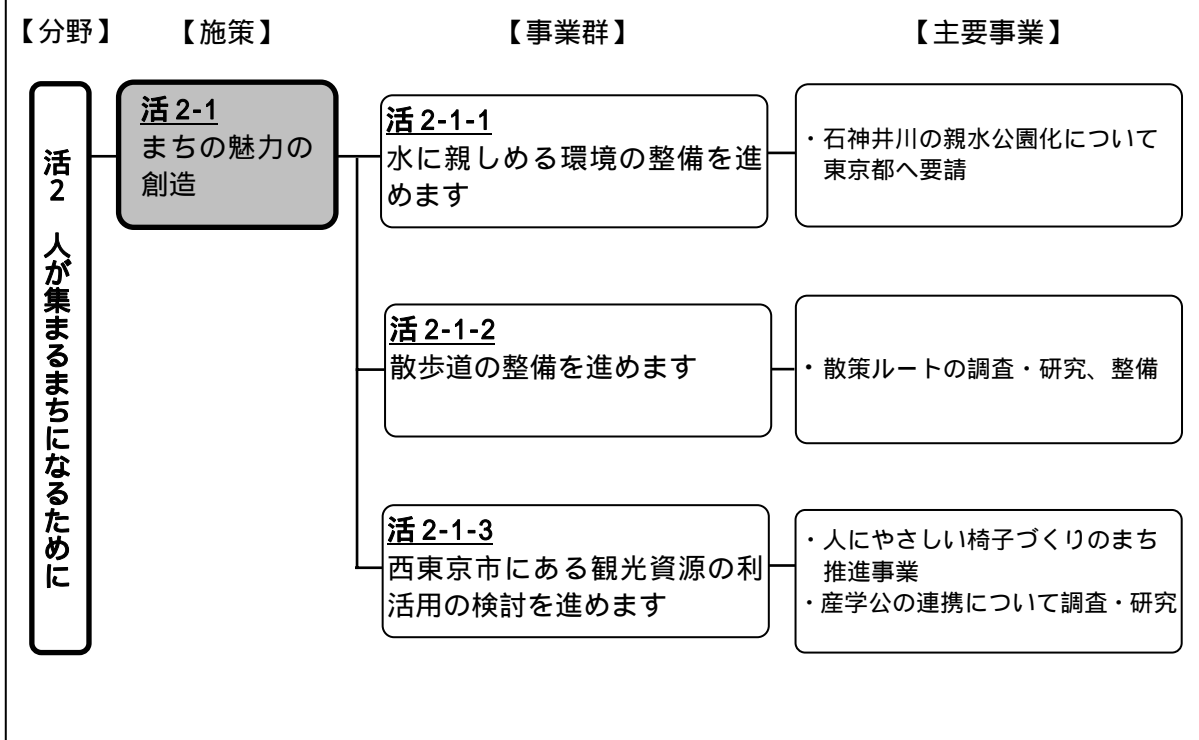
まちの活力を維持するためには産業の活性化はもとより、人が集まる魅力あるまちづくりが大切です。そのための魅力づくりとして、市内のみどりや川などの自然を保全、活用しながら、自然空間のいこいの環境づくりが必要となります。

日中や休日に訪れることのできるいこいの場や、水やみどりに親しみ遊べる場など、人が集いやすい環境を整備していきます。また、全市的なまちの魅力の創造として、市内に存在する自然環境を活かした散歩道などを整備し、それらを楽しむための散歩会や散策ルートの設定などの活動づくりを進めるほか、多様な観光資源を見出し活かす方策の検討を行い、人が集うまちを実現します。

用語解説

観光立国推進基本法：これは、平成 19 年 1 月に施行された法律です。この法律では、観光をわが国の重要な政策の柱として位置づけ、観光立国の実現に関する基本理念と方針が定められています。

図表 5-4 活2 人が集まるまちになるために～全体構成～



施策を取り巻く現状

西東京市では、まちの魅力を創造するため、4つの重点プロジェクトを定めて、市民の参加のもと、その進ちょくを検証してくるとともに、市内に散策ルートを設定し、散策会を実施するなど、周知に努めてきました。

一方、市民意識調査によると、多くの市民が良好な景観の整備と自然環境の維持が重要であると認識しています。合併後の一体的な魅力としての「西東京ブランド」のさらなる成熟が必要であるという市民の声もあります。

現在、東京都による東伏見公園の整備と石神井川の改修などが進められており、市内に不足していた水とみどりの景観として、まちづくりに有効に活かしていくことが求められます。今後は、住宅開発などと自然環境が調和した魅力ある景観づくりに取り組むとともに、アニメ産業やさまざまな分野で活躍する人材さらには石神井川周辺の景観創出といった特色ある地域資源を活用し、「西東京ブランド」を構築することが求められます。

施策全体の課題

一体的なまちの魅力としての「西東京ブランド」を構築するためには、市民、事業者、行政が連携することが不可欠です。交通関係の事業者などと連携したにぎわいのあるまちづくりをはじめ、多様な主体間の連携による仕掛けが必要です。

特に、アニメ産業やさまざまな分野で活躍する人材、石神井川周辺の景観創出など、西東京市の特色ある地域資源を活用し、魅力的な「西東京ブランド」を構築することが必要です。

さらに、にぎわいのあるまちづくりのためには、ホームページやコミュニティラジオといった地域の情報媒体を活用し、まちの魅力を発信することが必要です。

施策実施へ向けたキーワード

- ・ 西東京ブランドの構築
- ・ 自然環境を活かした景観形成
- ・ アニメ産業やさまざまな分野で活躍する人材を活かしたまちづくり
- ・ まちの魅力の情報力の強化
- ・ 東大農場を活用したまちづくり

用語解説

コミュニティラジオ：市町村に開設するラジオ局です。地元のニュースを中心に住民参加で放送を作っていく地域密着型のメディアです。

活2 - 1 まちの魅力の創造の目標

自然環境を活かした特徴あるまちづくりを進め、人が集まるまちとなるための魅力を向上させるとともに、人が集うきっかけづくりや観光資源の研究に取り組みます。

施策の成果を示す代表的な指標と5年後の姿(目標値)

代表的な指標	19年度 実績値	25年度 目標値	方向	指標設定の理由、目標の根拠
みどりの散策路めぐりへの参加者数	165人	200人	↗	西東京市の散歩道のネットワークで構成される「みどりの散策路めぐり」への参加者数を計ることで、魅力あるまちに育っているかを確認することができます。
アニメなどの地域資源の活用を検討した数		5件	↗	アニメ、農作物などの地域資源を活用して地域の活性化に向けた取組を進めます。

課題解決へ向けた主な取組

活2-1-1 水に親しめる環境の整備を進めます

- 市街地を流れる水辺空間を活用し、水とみどりに親しめる憩いの空間にするため、石神井川沿いは、親水広場の整備などを検討し、長期的には川沿いのほぼ全線について親水機能のある快適な空間の再生を図ることをめざします。

活2-1-2 散歩道の整備を進めます

- 市内に点在する公園や寺社、散歩道等をネットワーク化し、散策ルートの設定を行うなど、歩いて楽しめる安全で景観のよい魅力ある空間づくりを進めます。白子川等のふたかけ河川については、緑道化を図ります。
- (仮称)西東京キャンパスとして整備を進めている東大農場について市民開放を促進したり、空間を活用したイベントを検討するなど、人が集まる市民の活動を創出します。

活2-1-3 西東京市にある観光資源の利活用の検討を進めます

- 人が集う魅力あるまちをめざして、市内の憩いの場やオープンスペース、交通機関、商店街、特産物や文化財などのさまざまな観光資源の活用など、まちの魅力の創出と人が集まるきっかけづくりを研究し、実現へ向けての方策を検討します。

用語解説

親水：川に対する政策として、氾濫を防ぐ「治水」や、農業・工業やエネルギー開発で活用する「利水」が一般的でした。しかし近年、河川の水質汚濁などが進み、環境問題が叫ばれるなか、人々が川に親しむ「親水」の機能が注目され始めています。水そのものに親しむことを目的とした親水広場の整備や、さまざまな生物に触れ合うことを目指す取組など、多様な親水施設の整備が西東京市でもおこなわれています。